

# FLORA KANAGAWA

DEC. 10. 1982

神奈川県植物誌調査会ニュース 第13号

231 横浜市中区南仲通り5-60 神奈川県立博物館内  
神奈川県植物誌調査会(振替口座 横浜3-10195)  
TEL 045-201-0926

No. 13



ヤマトリカブト (撮影 大場達之)



ハコネトリカブト (撮影 高橋秀男)

## ヤマトリカブトと

### ハコネトリカブト

10月10日に行なわれた県民アカデミーの野外観察は、箱根駒ヶ岳-神山コースを歩き、大阪大の田村道夫先生と共に参加者60名がトリカブトを中心に観察に励みました。変異が多く種の境界が不明瞭であるが故に分類が困難であるといわれているトリカブトにアプローチしてみた訳ですが、花期をやや少し過ぎていたにもかかわらず、ササ草原や林縁部・林内などで、花をつけた個体を多数みる事ができた1日でした。今回の観察の結果、確認できたトリカブト類は、ササ草原や林縁部ではハコネトリカブト、それに混じって一部で

イヌハコネトリカブト、林内ではヤマトリカブト、ごく一部でスバシリトリカブトが確認されました。全般にササ草原の個体は茎が直立し、林内のものは茎が曲がっていたように思われました。

写真のハコネトリカブト・ヤマトリカブトはともに花梗に屈曲毛があり、葉質は薄く柔かくて中裂~深裂、卵形~披針形の鋸歯があり、雄蕊には毛があります。が、ハコネトリカブトの方は茎が直立し、ヤマトリカブトは曲がっています。イヌハコネトリカブト・スバシリトリカブトはともに花梗に開出毛がありますが、前者は茎が直立し、雌蕊に毛があるのに対し、後者は茎が曲がりふつう雌蕊に毛はありません。

(森本七子)

## レイジンソウの学名の命名者

先日神奈川県立博物館で大阪大学田村道夫先生の県内トリカブト属植物についての講義が行なわれた。

田村先生は用意されたテキスト中、レイジンソウの学名 *Aconitum loczyanum* の命名者が RAPAICS となっていたので、これを RAYMUND と訂正するようにと申された。それは彼の原報文に RAPAICS RAYMUND と署名されているためである。また東欧の人らしいが、そのはっきりとした国名は不明であること、時として RAPAICS が用いられているとも述べられた。

わが国の植物誌、図鑑、目録、報文などでは多くの場合 RAYMUND が用いられているが、ヨーロッパ植物誌やソ連邦植物誌では RAPAICS を採用している。

外国で RAYMUND を採らないのには、それ相当の理由がある訳で、この点について少し調べてみた。

まず、RAPAICS がトリカブト属の報文を発表している *Növénytani Közlemények* はハンガリーのブダペストで発行されていた研究誌であることが判明した。また彼は *Debrecen Floraja* (1912) をハンガリー語で著わしている。従って、彼はハンガリー人と考えられる。

ヨーロッパ人は名を前に姓を後に書くといふ一般に言われているがハンガリー人では大部分苗字が前にくる。ハンガリー人でもドイツ系やギリシア系では名を前に記すことがある。

例えば同国の音楽家バルトークは BARTÓK BÉLA、またシャンソン「枯葉」を作曲したコスマは KOSMA JOSEPH と書く。

作曲家リストは永く外国で活動していたので FRANZ VON LISZT となっているし、森鷗外が作家モルナル (MOLNÁR FERENC) の作品を邦訳した際にはドイツ語版を用いたので FRANZ MOLNÁR とドイツ風書き改めている。

そんな訳で、レイジンソウの学名命名者としては RAPAICS を採る方がよい。

なお、最近出版された平凡社刊「日本の野生植物Ⅱ」では正しく RAPAICS となっている。

自然科学を研究して行く場合にも、人文科学の知識を疎かにはできないし、またその逆も言える。

(小原 敬)

## サドスゲ 箱根に産す

昭和57年5月6、7日、友人の招きで箱根強羅附近の「子供の村」周辺をあるく機会を得ました。村の中にはそれ程とりたてて見るべきものもないようでしたが、村の北境には、早雲山の東面を深くえぐって流れ落ちる須沢のあばれ谷があり、途中いくつもの砂防堰堤が流れを仕切っています。この沢に沿って登っていた時、ある堰堤の上の泥湿地の中に、たたみ3畳ほどに群生しているスゲの仲間を見つけました。その時はそれ程気にも止めず、花茎を2本ほど折り取り手帳に狭んできました。帰宅後調べてみましたが、どうもサドスゲとしか思われません。なぜ、もっとしっかりと

標本なり写真なりとってこなかったのかと悔まれてなりません。そこで5月17日、思い切って日帰りで現地を再訪し、写真撮影と標本を採集してきた後、神奈川県立博物館の高橋秀男先生に御鑑定頂いたところ、まちがいはなくサドスゲ *Carex sadoensis* Fr. であり、神奈川県新産であることを御教示頂きました。現在、神奈川県植物調査を実施中とのことで、僅かですがお役に立てたのは本当に幸運でした。

御指導頂きました高橋秀男先生、標本を御届け下さった東京都立高尾自然科学博物館の新井二郎先生に厚く御礼申し上げます。

(八王子 畔上 能力)

## 丹 沢 の 調 査

責任分担区域である緑1と鶴見をほぼ済ませ、その後、川崎市と横浜北部の全地域に足を伸ばし、横浜南部を含めたおよそ7500種の標本の記録と整理を終えた私達は、今春からほとんど調査の進んでいなかった山北地区や手薄な相模湖方面にも出かけることにしました。二人の行動記録は次の通りで、高いところは山岳部顧問である若い元気な勝山が寝袋を持って歩いています。

3月30日	サ	5月9日	ヤ-6	6月6日	サ-フ-2
4月11日	ヤ-5	5月16日	サ	6月12日	フ-2
4月18日	フ-1	5月22日	)ヤ-3, 5, 6	6月15日	ヤ-6
4月25日	サ	5月23日		マ	6月19日
4月29日	ヤ-8, マ	5月29日	)ヤ-1, 2, 5	6月20日	マ
5月2日	フ-2	5月30日		マ	6月26日
				6月27日	フ-1, 2 サ

その結果、ほぼ3ヶ月で確認できた種類は

(1) フ-1	250	(5) ヤ-2	200	(9) ヤ-6	300
(2) フ-2	240	(6) ヤ-3	80	(10) ヤ-7	300
(3) サ	330	(7) ヤ-4	150	(11) ヤ-8	100
(4) ヤ-1	70	(8) ヤ-5	300	(12) マ	300

となりました。ただし、フは藤野、サは相模湖、ヤは山北、マは松田の略で、山北-7の標本中、9割は内藤美知子さんのお採りになったものです。全地域の通算種類は550種類で、今年中には1000種になるかもしれません。

今回、自分の居住地、勤務地から遠く離れた地で採集した結果、①あって当然の植物を採り忘れる。②地域が広すぎて綿密な採集ができない。③往復に多くの時間を費し、採集のための時間が短くなる。④少なくとも今後4年の歳月が欲しい。⑤街の植物と違った難しさがある。⑥交通費が馬鹿にならない。(ロマンスカーや高速バスで新宿まで坐って帰れるのは立って帰る電車よりも快適です)ということがわかりました。それにも拘らず、今後も休日ごとに出かけるつもりなのは、木や草を見るのが楽しいからこそ出来るのでしよう。

しかし、私達が月月火水木金で頑張っても限界があります。同定しにくい植物もだんだん増えてきました。今後、どのような方法をとるのが最善か、私達に

は判断できません。

(鶴見高校 森茂弥・勝山輝男)

## 丹沢の採集記

未調査のまま残されていた丹沢山塊(山北町)の調査を4月から行なっているが、その採集行の一端を紹介する。

7月28～29日、大室山南面手沢へ入る。イワタバコが満開である。花茎に毛のあるケイワタバコと無毛のものが混生している。オオヤマハコベ、ヤマホロシ、ミヤマヤブタバコ、タチネズミガヤ、オニルリソウなどを採集しながら上流へ向かう。この沢で唯一の滝らしい滝を1つ越える。壁にクモキリソウが2株、先日、西沢の前権現山で採集しているのでそっとしておく。源流が近づくと、タバコモミジガサ、イワギボウシ、タマガワホトトギスなどが目につく。沢のつめは下がえぐれた箇所で登れないので、右側の小尾根に逃げたが、途中からハコネコメツツジがびっしり生えた壁になり苦労する。ふと足元を見るとオノエラン。残念ながら花は終わり実がついている。ミヤマカラマツ、シモツケソウ、オオバギボウシ、ヤマタイミンガサ、アマニュウなどが見られるようになると楽になり、縦走路に出た。大室山頂のオオモミジガサ、レンゲショウマはまだつぼみだ。フジチドリがないかとブナの大木を見上げるが、見つからない。マルバダケブキ、タテヤマギク、ハコネギク、ミヤマベニシダなどを採って行く。

翌日、加入道山でエズズランを採取。白石峠～畦ヶ丸へ向かう。ミヤマイタチシダ、ミヤマニンジン、バイカツツジを採りながら畦ヶ丸へ。大滝峠への下りでは木に登ってイワオモダカを採る。大滝沢ではヒナノウスツボ、ケゴンアカバナなどが得られた。中川付近ではチダケサシ、フジカンゾウなど里の植物を採集して帰路につく。

8月5～6日、幽神から熊木沢を経て蛭ヶ岳へ登る。玄倉林道の岩壁にはハナゼキショウが多い。もう開花しているものもある。熊木沢へ入ると林道のガレ場にピランジの赤い花が見られる。先日の台風で大木が折れたり、枝が落ちたりしている。道が荒れていて歩きにくい。木や着生植物の採取には都合が良い。蛭ヶ岳が近づくとウスユキソウ、シモツケソウ、マルバダケブキ、ソバナ、キンレイカなどの花が見られるようになる。蛭ヶ岳で泊まって翌日は、白ヶ岳～金山谷の頭～中尾根を経て幽神へもどる。途中、シュロソウ、ジンバイソウ、ナガバノキノチドリ、ヒメイワカガミ、イケマなどを採る。

8月11～12日、山中湖から菰釣山を経て中川まで東海自然歩道を歩いた。高指山付近の草原では、コバギボウシ、ヒメトラノオなどがきれいに咲いている。まだ花には早い。セイカタウヒレンもたくさんある。大棚の頭手前から樹林に入り、モミジガサ、ヤマゼリ、コウモリソウ、マルバダケブキ、レンゲショウマなどが採れる。タカネコウボウ、ツレサギソウ、ヒトツバカエデを採りながら進む。菰釣山が近づくとスズタケ

が多くなり、林床は単調になってくる。それでもオオカモメツル、ミヤマベニシダ、ヤマタイミンガサ、ブナに着生したマツノハマネングサなどが採れる。城ヶ尾～大滝峠間の沢ではギンバイソウ、大木にはイワオモダカが多い。大滝沢は台風ですっかり洗われてしまい見るべきものはない。

(勝山輝男)

## 神奈川のフロラ短報 1

神奈川県植物調査がはじまって以来、県民の植物に対する関心も高まり、さまざまな情報が博物館へ寄せられることが多くなった。その確認のために出かけることも多く、また直接博物館へ標本を持参され同定を求められることもあり、これらの貴重な情報を今後の植物誌のまとめにあたって活用してゆきたいと思っている。そこでこのような資料を表題のもとに逐次発表してゆき、情報提供者のご好意にこたえとともに、メッシュ担当者への情報源にもしたいと考え本欄を設けた。担当のメッシュ以外の地域で気付いたことがありましたら、この欄を通して紹介していただきたいと思っている。なお産地の公表は一部絶滅の恐れのあるものや貴重な種類については、メッシュのNo. だけにとどめることにしたい。

(1) キバナノショウキラン *Yuania amagiensis*

Nakai et F. Maekawa

採集地 清川村〔KI-3〕

採集者 清川村緑小学校 吉田文雄

採集年月日 1982. 7. 2.

備考 花期の個体で全体がややピンクを帯びる。

(2) マヤラン *Cymbidium nipponicum* (Fr. et Sav.)

Makino

採集地 厚木市飯山観音付近〔AT-3〕

発見者 川崎市 博松久子

採集年月日 1981. 8. 29.

備考 朝日カルチャーセンターの講師でもある内田藤吉氏が採集し、平塚市立博物館の浜口哲一氏の協力で液浸標本にしてとどけて下さった。新聞記事にもなりご存知の方も多いと思う。

(3) シロバナシモツケ *Spiraea japonica* Linn.

fil. form. *albiflora* Kitamura

採集地 鎌倉市鎌倉湖〔KA-1〕

採集者 天野幸治

採集年月日 1982. 7. 1.

(4) ウチワゴケ *Gonocormus minutus* (Bl.) v. d. B.

採集地 厚木市七沢〔AT-4〕

採集者 平塚市桜ヶ丘5-12 増子忠治

採集年月日 1982. 5. 11.

(5) オオハクウンラン *Vexillabium fissum* F.

Maekawa

発見場所 箱根〔HAK-4〕

発見者 秦野市今泉588-3 寶森又太郎

発見年月日 1981. 8. 27.

備考 上記内田藤吉氏に随行中発見。

(6) オオバノハチジョウシダ *Pteris inaequalis*

Bak. var. *aequata* Tagawa

採集地 山北町洒水の滝〔YA-8〕

採集者 増子忠治

採集年月日 1981. 9. 10.

(7) ノコギリシダ *Diplazium wichurae* Diels  
上に同じ

(8) ハカタシダ *Arachniodes simplicior* Ohwi

採集地 厚木市七沢〔AT-4〕

採集者 増子忠治

採集年月日 1981. 10. 1.

(9) フモトシダ *Microlepia marginata* C. Chr

採集地 大磯町高麗山〔OIS〕

採集者 増子忠治

採集年月日 1981. 10. 10

箱根駒ヶ岳-神山 (Oct. 10, 1982) の記録

去る10月10日、県民アカデミーのトリカブトを見る  
野外調査は箱根駒ヶ岳-神山のコースで行なわれました。

参加者は60名、講師は阪大の田村道夫先生で、分類  
の難しいトリカブトを中心に観察してきました。トリ  
カブトは花は少し過ぎていたようでしたが、花期の個  
体も多く、全部で4種類が確認できました。

その時にフロラ調査もあわせて実施してきましたの  
で収録しておきます。記録は長谷川義人氏が担当され、  
ほかに参加者からのメモも加えてまとめました。

キク科-ハコネギク、キオン、マルバダケブキ、ハ  
コネアザミ、リュウノウギク、タテヤマギク、ホソエ  
ノアザミ(S)、メタカラコウ、キントキシロヨメナ、ハ  
コネヒヨドリ、ニガナ、シロヨメナ(S)、フクオウソウ、  
テバコモミジガサ、コウモリソウ、ミヤマヤブタバコ。

キキョウ科-タニギキョウ。

ウリ科-アマチャヅル(S)。

オミナエシ科-キンレイカ、オトコエシ。

スイカズラ科-ニシキウツギ、コウグイスカグラ、  
ベニバナツクバネウツギ、ツクバネウツギ、ニワトコ、  
ガマズミ、ゴマギ、ヤブデマリ。

アカネ科-キクムグラ、ウスユキムグラ。

オオバコ科-オオバコ。

ゴマノハグサ科-ヒナノウスツボ(S)、ハンカイシオ  
ガマ、クワガタソウ。

ナス科-アオホウズキ。

シソ科-イヌヤマハッカ(S)、テンニンソウ、ヤマト  
ウバナ、ナギナタコウジュ、イヌトウバナ(S)。

クマツヅラ科-ムラサキシキブ。

ガガイモ科-オオカモメヅル。

リンドウ科-リンドウ、ツルリンドウ。

モクセイ科-ミヤマイボタ、アラゲアオダモ、コバ  
ノトネリコ(S)。

エゴノキ科-エゴノキ。

ハイノキ科-タンナサワフタギ。

ツツジ科-ハコネハナヒリノキ、アセビ、サラサド  
ウダン、スノキ、トウゴクミツバツツジ、ネジキ、ハ  
コネコメツツジ。

リョウブ科-リョウブ。

イワウメ科-ヒメイワカガミ。

ミズキ科-ヤマボウシ。

セリ科-イワニンジン、ミヤマニンジン、セントウ  
ソウ。

ウコギ科-コシアブラ、トチバニンジン。

アカバナ科-タニタデ、ミヤマタニタデ。

グミ科-マメグミ。

スミレ科-ヒメミヤマスミレ。

オトギリソウ科-コオトギリ。

ツバキ科-ヒコサンヒメシヤラ。

マタタビ科-サルナシ。

クロウメモドキ科-コバノクロウメモドキ。

カエデ科-オオイタヤメイゲツ、チドリノキ、カジ  
カエデ、コミネカエデ、コハウチワカエデ。

ニシキギ科-オニツルウメモドキ、ツルマサキ、マ  
ユミ、ツリバナ。

モチノキ科-アオハダ、イヌツゲ。

ウルシ科-ツタウルシ。

ミカン科-マツカゼソウ、ミヤマシキミ。

カタバミ科-コミヤマカタバミ。

フウロソウ科-コフウロ、ゲンノショウコ。

バラ科-フジイバラ、サンショウバラ、マメザクラ、  
バライチゴ、カマツカ、コゴメウツギ、ミツバツチグ  
リ、ダイコンソウ、モミジイチゴ、ナナカマド、ヒメ  
ヘビイチゴ、フジアカショウマ、シモツケソウ、オヤ  
マシモツケ、ヤマテリハノイバラ。

ユキノシタ科-ヤマアジサイ、イワガラミ、ヒメウ  
ツギ、ツルアジサイ、コアジサイ、ノリウツギ、ウツ  
ギ。

ベンケイソウ科-マツノハマンネングサ。

クスノキ科-クロモジ、アブラチャン。

モクレン科-コブシ。

メギ科-メギ。

キンボウゲ科-ハコネトリカブト(S)、ヤマトリカブ  
ト(S)、イヌハコネトリカブト(S)、スバシリトリカブ  
ト(S)、ハンショウヅル。

ヤマグルマ科-ヤマグルマ。

ナデシコ科-ミドリハコベ。

タデ科-タニソバ、ミヤマタニソバ、イタドリ。

イラクサ科-コアカツ、ミズ、ヒメウワバミソウ。

ブナ科-ブナ、コナラ。

カバノキ科-ツノハシバミ、ケヤマハンノキ。

ヤナギ科-バッコヤナギ。

センリョウ科-フタリシズカ。

ラン科-クモキリソウ、アリドオシラン、ハコネラ  
ン(y)、フタバラン(y)。

ユリ科-ノギラン、ナルコユリ。

サトイモ科-ミミガタテンナンショウ、ハウチワテ  
ンナンショウ。

カヤツリグサ科-イトスゲ、ミヤマカンスゲ、ゴン  
ゲンスゲ、ヒメスゲ。

イネ科-ヒメノガリヤス、ミヤマクマザサ(S)、ハコ  
ネメダケ(S)、トクガワザサ(S)、スズタケ。

ヒカゲノカズラ科-ホソバトウゲシバ。

イワヒバ科—クラマゴケ(S)。  
オンダ科—ヘビノネゴザ(S), ジュウモンジシダ(S),  
ハリガネワラビ, イヌワラビ, ミヤマシケシダ(S)。  
シシガシラ科—シシガシラ(S)。  
ウラボシ科—ミヤマノキシノブ。

### 厚木地区〔AT-4〕の記録

1982年6月から8月にかけて厚木地区の調査を実施しましたので報告いたします。(AT-4)

調査地と調査日は広沢寺〜七沢(Jun. 13), 広沢寺〜不動尻(Jul. 29), 鐘ヶ岳(Aug. 12), 大山〜不動尻〜煤ヶ谷(Aug. 19), 七沢〜広沢寺〜上谷戸(Aug. 28)です。9月1日現在で整理できた証拠標本は次の通りです。

- F10 カニクサ科—カニクサ。  
F13 イノモトソウ科—オウレンシダ, イワガネソウ。  
F18 オンダ科—ヒメカナワラビ, イノデモドキ, ハカタシダ, ベニシダ, エビラシダ, ヘビノネゴザ, ヤマイヌワラビ, シケシダ, セイタカシケシダ, オオヒメワラビ。  
F20 チャセンシダ科—トラノオンダ。  
F102 イチイ科—カヤ。  
F105 マツ科—ツガ。  
F106 スギ科—スギ。  
F107 ヒノキ科—ヒノキ。  
F20 イネ科—キツネガヤ, ヤマカモジグサ, トボシガラ, ホガエリガヤ, オヒシバ, カニツリグサ, ヤマヌカボ, トダシバ, オオクサキビ, イヌビエ, キンエノコロ, コツブキンエノコロ, チカラシバ, チヂミザサ, スズメノヒエ, メヒシバ, ススキ。  
F210 カヤツリグサ科—カヤツリグサ。  
F215 ツユクサ科—ヤブミョウガ, ツユクサ。  
F220 ユリ科—シオデ, サルトリイバラ, ヤマカシユウ<sup>\*1</sup>, ヤブラン, ホウチャクソウ, ツルボ, ヤマホトトギス, オオバジャノヒゲ。  
F222 ヤマノイモ科—ヤマノイモ, オニドコロ。  
F226 ラン科—トンボソウ, ハクウンラン。  
F300 ドクダミ科—ドクダミ。  
F303 ヤナギ科—シバヤナギ。  
F306 カバノキ科—ヤマハンノキ, ヤシヤブシ, サワシバ, クマシデ, イヌシデ。  
F307 ブナ科—ミズナラ, アラカシ, スダジイ。  
F308 ニレ科—ケヤキ。  
F309 クワ科—カナムグラ, イタビカズラ, コウゾ, ヤマグワ。  
F310 イラクサ科—ムカゴイラクサ, アオミズ, アオカラムシ, カラムシ, コアカソ, ナガバヤブマオ, メヤブマオ。  
F316 ウマノスズクサ科—フタバアオイ。  
F319 タデ科—エゾノギシギシ, ギシギシ, ミズヒキ, シンミズヒキ, ミチヤナギ, オオイヌタデ, イヌタデ, ヌカボタデ, イタドリ。  
F321 ヒユ科—イノコヅチ。

- F322 ヤマゴボウ科—ヨウシュヤマゴボウ。  
F323 ツルナ科—ザクロソウ。  
F325 ナデシコ科—ツメクサ, ミミナグサ, ウシハコベ, コハコベ, サワハコベ。  
F328 ヤマグルマ科—ヤマグルマ。  
F331 キンボウゲ科—クサボタン, コボタンヅル, センニンソウ, アキカラマツ, キツネノボタン。  
F333 メギ科—メギ。  
F334 ツツラフジ科—アオツツラフジ。  
F336 クスノキ科—ダンコウバイ, クロモジ, アブラチャン。  
F337 ケシ科—タケニグサ。  
F339 アブラナ科—ヤマハタザオ, イヌガラシ。  
F341 ベンケイトウ科—コモチマンネングサ。  
F343 ユキノシタ科—イワボタン, アカシヨウマ, イワガラミ, タマアジサイ, ヤマアジサイ, コアジサイ, ガクウツギ, ノリウツギ。  
F344 マンサク科—マンサク。  
F345 バラ科—ヤマブキシヨウマ, キンミズヒキ, ダイコンソウ, ヤブヘビイチゴ, ウラジロノキ, オオフジイバラ, テリハノイバラ, ニガイチゴ, クマイチゴ, モミジイチゴ, フユイチゴ, ヤマブキ。  
F346 マメ科—ヤハズソウ, メドハギ, キハギ, マルバハギ, フジカンゾウ, ヌスビトハギ, ヤブハギ, ケヤブハギ, コマツナギ, クズ, ツルマメ, フジ。  
F347 フウロソウ科—ゲンノシヨウコ。  
F348 カタバミ科—カタバミ, ミヤマカタバミ。  
F351 ミカン科—マツカゼソウ, イヌザンシヨウ, サンシヨウ, フユザンシヨウ。  
F355 トウダイグサ科—エノキグサ, コニシキソウ, アカメガシワ。  
F360 ウルシ科—ヌルデ。  
F361 モチノキ科—アオハダ。  
F362 ニシキギ科—ツルウメモドキ<sup>\*2</sup>, イヌツルウメモドキ。  
F365 カエデ科—コハウチワカエデ, オオモミジ, イタヤカエデ, エンコウカエデ, ウラゲエンコウカエデ。  
F370 クロウメモドキ科—クマヤナギ。  
F371 ブドウ科—ヤブガラシ, ノブドウ, エビヅル, ツタ。  
F376 マタタビ科—サルナシ。  
F377 ツバキ科—ヤブツバキ。  
F378 オトギリソウ科—オトギリ<sup>\*3</sup>, オトギリソウ。  
F380 スミレ科—タチツボスミレ, マルバスマシレ。  
F382 キブシ科—キブシ。  
F387 ウリノキ科—ウリノキ。  
F390 アカバナ科—ミズタマソウ。  
F394 ウコギ科—タラノキ, キヅタ, ハリギリ, オカウコギ, ヤマウコギ。  
F395 セリ科—ノチドメ, ミヤマチドメ, ヒメチドメ, ウマノミツバ, ミツバ, カノツメソウ, ヤマゼリ。  
F396 ミズキ科—アオキ, ミズキ, クマノミズキ,

ヤマボウシ。  
 F401 リョウブ科ーリョウブ。  
 F403 ツツジ科ーサラサドウダン, アセビ。  
 F405 サクラソウ科ーミヤマタゴボウ, オカトラノオ。  
 F408 ハイノキ科ーサワフタギ。  
 F409 エゴノキ科ーエゴノキ。  
 F410 モクセイ科ーイボタノキ, ミヤマイボタ, マルバアオダモ。  
 F411 フジウツギ科ーフジウツギ。  
 F413 キョウチクトウ科ーテイカカズラ。  
 F418 クマツヅラ科ームラサキシキブ, クサギ。  
 F419 シソ科ーアキノタムラソウ, フジテンニンソウ, トウバナ, イヌトウバナ, ウツボグサ, オカタツナミソウ, ツルニガクサ。  
 F420 ナス科ーハダカホウズキ。  
 F426 キツネノマゴ科ーキツネノマゴ。  
 F428 ハエドクソウ科ーハエドクソウ。  
 F429 オオバコ科ーオオバコ。  
 F430 アカネ科ーハシカグサ, ヘクソカズラ, アカネ, ヤマムグラ, ヨツバムグラ。  
 F431 スイカズラ科ーウグイスカグラ, ニワトコ。  
 F433 オミナエシ科ーオトコエシ。  
 F435 ウリ科ーアマチャヅル。  
 F436 キキョウ科ーツリガネニンジン, ホタルブクロ。  
 F438 キク科ーノゲシ, オニタビラコ, フクオウソウ, ヤマニガナ, ナガバノコウヤボウキ, カシワバハグマ, トネアザミ, ノボロギク, ヤブレガサ, ヨモギ, センダングサ, ノブキ, ヤブタバコ, サジガクビソウ, ヒメガクビソウ, ミヤマヤブタバコ, ホソバガクビソウ, ハキダメギク, ヤハズハハコ, ヒメジョオン, オオアレチノギク, タテヤマギク, ユウガギク, ヒヨドリバナ, ヨツバヒヨドリ。

\* 1. トゲナシの型

\* 2. キミツルウメモドキの型

\* 3. クロテンコオトギリの型

( Sep. 3 山本 明 )

## 宮ヶ瀬周辺目録

### 1. 仏果山 [K1-2]

#### 裸子植物

F102 イチイ科ーカヤ。

F105 マツ科ーモミ。

#### 単子葉植物

F209 イネ科ーネズミムギ, ミヤコザサ, アキメヒシバ, チヂミザサ, コヌカグサ, イヌビエ, オヒシバ, アブラススキ, ススキ, オオアブラススキ, エノコログサ, キンエノコロ, スズタケ。

F210 カヤツリグサ科ーカヤツリグサ。

F220 ユリ科ーサルトリイバラ, ヤブラン, ツルボ, ヤマカシユウ, オオバギボウシ。

F222 ヤマノイモ科ーオニドコロ, キクバドコロ, ヤマノイモ。

#### 双子葉植物〔離弁花類〕

F303 ヤナギ科ーヤナギ, シバヤナギ。

F306 カバノキ科ーアカシデ, サワシバ, クマシデ。

F307 ブナ科ーアラカシ, コナラ, クリ, ウラジロガシ。

F310 イラクサ科ーイラクサ, コアカソ。

F316 ウマノスズクサ科ーカンアオイ, オオバノウマノスズクサ。

F319 タデ科ーハナタデ, タニソバ。

F320 アカザ科ーシロザ。

F321 ヒユ科ーヒカゲイノコヅチ。

F325 ナデシコ科ーミドリハコベ。

F331 キンボウゲ科ークサボタン, イヌシヨウマ。

F332 アケビ科ーミツバアケビ。

F335 モクレン科ーホオノキ, シキミ。

F336 クスノキ科ーダンコウバイ, クロモジ, アブラチャン, ヤマコウバシ。

F342 ユキノシタ科ーウツギ, マルバウツギ, タマアジサイ。

F345 バラ科ーニガイチゴ, コゴメウツギ, ウラジロノキ, ヤマブキ, ヘビイチゴ, ダイコンソウ, ノイバラ。

F346 マメ科ーキハギ, ハリエンジュ, フジ。

F347 フウロソウ科ーゲンノシヨウコ。

F351 ミカン科ーコクサギ, マツカゼソウ, イヌザンシヨウ。

F355 トウダイグサ科ーシラキ, トウダイグサ。

F360 ウルシ科ーヌルデ。

F361 モチノキ科ーイヌツゲ。

F362 ニシキギ科ーツリバナ, ツルマサキ。

F363 ミツバウツギ科ーゴンズイ。

F365 カエデ科ーエンコウカエデ。

F370 クロウメモドキ科ークマヤナギ。

F376 マタタビ科ーマタタビ, サルナシ, ミヤママタタビ。

F384 グミ科ーツルグミ。

F394 ウコギ科ーハリギリ。

F395 セリ科ーウマノミツバ, シラネセンキョウ。

F396 ミズキ科ーヤマボウシ, アオキ。

#### 〔合弁花類〕

F403 ツツジ科ーミツバツツジ, ヤマツツジ, アセビ。

F404 ヤブコウジ科ーヤブコウジ。

F410 モクセイ科ーコバノトネリコ, ミヤマイボタ。

F418 クマツヅラ科ークサギ。

F419 シソ科ーシモバシラ, アキノタムラソウ, ナツノタムラソウ, イヌヤマハッカ, ミヤマトウバナ。

F426 キツネノマゴ科ーキツネノマゴ。

F428 ハエドクソウ科ーハエドクソウ。

F429 オオバコ科ーオオバコ。

F430 アカネ科ーアカネ。

F431 スイカズラ科ーツクバネウツギ, ガマズミ, ハコネウツギ, コバノガマズミ。

F433 オミナエシ科ーオミナエシ。

F436 キキョウ科ーツリガネニンジン。

F438 キク科ーカシワバハグマ, ガクビソウ, ヒメジョオン, ニガナ, ヤブタバコ, コウヤボウキ, アキノキリンソウ, ヤブレガサ, ノブキ, シラヤマギク,

モミジガサ, ノブキ, ホソエノアザミ, ヒヨドリバナ,  
ハハコグサ。

羊歯植物

F22 ウラボシ科—ゲジゲジシダ, ツルデンダ, ワ  
ラビ, ヤブソテツ。

2. 金沢林道〔KI-2〕

裸子植物

F105 マツ科—モミ。

F106 スギ科—スギ。

単子葉植物

F209 イネ科—ムラサキエノコロ, コヌカグサ, イ  
ヌビエ, コブナグサ。

F210 カヤツリグサ科—カヤツリグサ。

F220 ユリ科—ヤマホトトギス。

F222 ヤマノイモ科—オニドコロ。

双子葉植物〔離弁花類〕

F302 センリョウ科—ヒトリシズカ。

F310 イラクサ科—コアカソ, ヤブマオ, クサコア  
カソ。

F319 タデ科—ミヅソバ, ミズヒキ, ママコノシリヌ  
グイ。

F321 ヒユ科—ヒナタイノコヅチ

F325 ナデシコ科—フシグロセンノウ。

F329 フサザクラ科—フサザクラ。

F331 キンポウゲ科—イヌシヨウマ, センニンソウ。

F336 クスノキ科—ヤマコウバシ, アブラチャン。

F342 ユキノシタ科—タマアジサイ, ヤマアジサイ,  
ウツギ。

F345 バラ科—キイチゴ, キンミズヒキ, ダイコン  
ソウ, ヤマブキ。

F346 マメ科—フジ, キハギ, コマツナギ。

F347 フウロソウ科—ゲンノシヨウウコ。

F351 ミカン科—マツカゼソウ, コクサギ。

F362 ニシキギ科—ツリバナ。

F365 カエデ科—イタヤカエデ。

F371 ブドウ科—ノブドウ。

F390 アカバナ科—アレチマツヨイグサ。

F395 セリ科—シラネセンキュウ。

F396 ミズキ科—ハナイカダ。

〔合弁花類〕

F418 クマツヅラ科—ムラサキシキブ。

F419 シソ科—クルマバナ, ヤマハッカ。

F426 キツネノマゴ科—キツネノマゴ。

F428 ハエドクソウ科—ハエドクソウ。

F430 アカネ科—ヨツバムグラ, ヘクソカズラ。

F436 キキョウ科—ツルニンジン。

F438 キク科—モミジガサ, ホソエノアザミ, ユウ  
ガギク, タイアザミ, ノボロギク, オニタビラコ, ノ  
ゲシ, ヒヨドリバナ, ヒメムカシヨモギ, メタカラコ  
ウ。

羊歯植物

F18 オシダ科—フクロシダ。

F22 ウラボシ科—シケンダ, ベニシダ。

(保土ヶ谷高校生物部・高橋節郎)

逗子市〔ZU〕採集植物目録〔I〕

ハキダメギク 小坪 1981.6.20

ハルジオン 久木 1981.6.20

マツヨイグサ 小坪 1981.6.20

ムラサキツメクサ 新宿 1981.6.20

ヒメジオン 新宿 1981.6.20

シマスズメノヒエ 小坪 1981.6.20

ヒルザキツキミソウ 小坪 1981.6.20

コマツヨイグサ 小坪 1981.6.20

ネズミムギ 逗子マリーナ 1981.6.27

オオイヌノフグリ 逗子マリーナ 1981.6.27

マツバゼリ 逗子マリーナ 1981.6.27

オランダミミナグサ 逗子マリーナ 1981.6.27

タチイヌノフグリ 逗子マリーナ 1981.6.27

カモガヤ 小坪 1981.6.20

セイバンモロコシ 逗子マリーナ 1981.6.26

ヘラオオバコ 逗子マリーナ 1981.6.27

アレチノギク 小坪 1981.6.27

ハナクサキビ 桜山 1981.8.14

ニワゼキショウ 逗子マリーナ 1981.6.27

レモンエゴマ 小坪 1981.6.27

コアカザ 小坪 1981.6.27

ブタナ 久木 1981.7.18

ウラジロアカザ 小坪 1981.6.27

シナガワハギ 桜山 1981.6.6

コメツブウマゴヤシ 桜山 1981.6.6, 久木 1981.7.18

カラクサナズナ 桜山(田越川辺) 1981.6.6

ヒメコバンソウ 桜山 1981.6.6

ムギクサ 新宿 1981.6.6

ハルザキヤマガラシ 沼間 1982.5.9

アキザキヤツシロラン 六代御前墓裏山 1981.1.29

(山内好孝)

県立博物館では植物誌のデータをコンピュータに打ち  
込む時、以下のようにとり決めていきます(番号はその  
優先順位を意味します)。

1979年1月1日以降のデータ

1. 標本によるもの(当調査会) — s 文字
2. " (他館, 個人など) — h "
3. 文献によるもの — l "
4. メモ(野帳)によるもの — m "

1978年12月31日以前のデータ

5. 標本によるもの — y "
6. 文献によるもの — x "
7. メモ・伝聞などによるもの

(印刷されていないこと) — z "

さらに、これらのデータをもって分布図を作成した  
場合、コンピュータには、それぞれ 1. ● 2. ○  
3. ■ 4. ◆ 5. \* 6. + 7. V の記号が用いられ図  
示されることになっています。次頁に例を示します。

ハコモシクサ

*Adiantum monochlamys* Eaton



トクノモシクサ

*Asplenium incisum* Thunb.



コシクサ

*Dicranopteris dichotoma* Bernh.



セコシクサ

*Oseunda japonica* Thunb.



オオカナクワヒ

*Polystichopsis anabilis* Tagawa



オオハコノイノモトソウ

*Pteris cretica* L.

